

第53回夏季大学「降雪・積雪予測と雪氷防災の最前線」開講のお知らせ

教育と普及委員会

主催：(公社)日本気象学会

後援(予定)：気象庁，日本地学教育学会，(一財)気象業務支援センター，(一社)日本気象予報士会

日本気象学会教育と普及委員会は，最新の気象学の知識の普及を目的として，学生・大学院生，小・中・高等学校の教諭，気象予報士及び気象に興味を持っている一般の方々を対象に，毎年夏休みの時期にやや専門性の高い講座である「夏季大学」を開講しています。

今回の夏季大学のテーマは「降雪・積雪予測と雪氷防災の最前線」です。平成30年2月の北陸地方平野部を中心とした大雪や平成26年2月の関東甲信・東北・北海道地方での大雪・暴風雪等，広範囲に甚大な被害を及ぼす雪害が近年相次いでいます。一方で，気象学に加えて雪氷学分野の研究の発展により，雪崩等の雪氷災害対策への取り組みも推進されています。このような背景から，今回の夏季大学では「雪」をキーワードとして，近年の最先端の研究による科学的知見や降雪・積雪予測を基にした雪氷防災に関する幅広い内容について，専門家の皆様から講義を行っていただく企画にしました。

○日程，講義題目(仮題)，講師

2019年8月3日(土)

- 10:30 開講
 10:35-10:50 「講師紹介と夏季大学の概要紹介」
 10:50-12:00 「雪に関する防災気象情報の改善」
 土井内則夫(気象庁)
 「解析積雪深・解析降雪量の概要」
 石井恭介(気象庁)
 13:00-13:50 「吹雪災害と吹雪への備え」
 丹治和博(日本気象協会)
 14:00-14:50 「雪国の防災とまちづくり」
 上村靖司(長岡技術科学大学)

2019年8月4日(日)

- 10:00-10:50 「地球温暖化で変わる日本の雪」
 川瀬宏明(気象庁気象研究所)
 11:00-11:50 「日本各地に大雪をもたらす大気循環場の特徴」

本田明治(新潟大学)

13:00-13:50 「雪崩発生メカニズムと予測の試み」

中村一樹(防災科学技術研究所)

14:00-14:50 「学習到達度試験(クイズ形式)」

※講義題目・講義時間に変更となる可能性があります。

○講義会場

気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

会場の地図は，気象庁ウェブサイト

(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/map.html>)をご覧ください。

○募集対象人数

定員100名程度

○受講料(消費税含む)

5,000円(学生3,000円)

参加申込受付後，郵便口座をお知らせしますので，そちらに受講料の振込みをお願いします。

○講義資料

受講者の方には，事前に講義レジュメをオンライン配布します。また，開催後に，講義まとめ録を「教育と普及委員会」ウェブサイトに掲載する予定です。同サイトには，過去の資料が公開されていますので，ご覧ください。

○参加申込方法

ウェブ・フォームによるオンライン受付を原則とさせていただきます。詳細は，「教育と普及委員会」夏季大学ウェブサイト(https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/summer_school)をご覧ください。インターネットへの接続環境をお持ちでない方は，下記事務局の連絡先までお問い合わせ下さい。

○参加申込開始日

2019年6月17日(月)

定員になり次第，締め切らせていただきます。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel: 03-3216-4403, Fax: 03-3216-4401